

仮想構造物構築による分かりやすい住民説明・合意形成 ～現場主体の地権者対応の工夫～

【事業、施策のねらい】:住民要望の導入のための分かりやすい住民説明

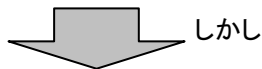
【事業、施策の結果】:住民の不安解消。地域全体との合意形成

【事業・施策のあらまし】

- ①施策分野:外部接点強化
- ②実施箇所:三陸自動車道 橋梁架設地点における県道および市道の平面交差点
- ③実施期間:平成18年8月
- ④事業概要:橋脚設置による見通し悪化の不安に対して、分かりやすい住民説明の実施

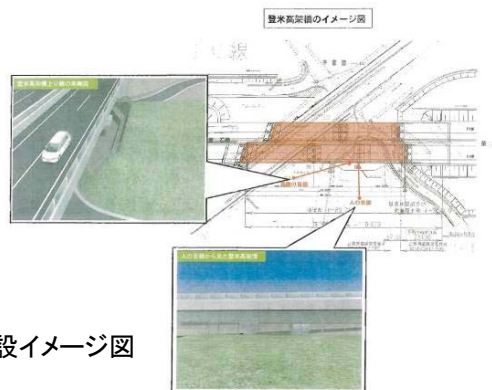
地元の住民の方々より橋梁架設による見通し悪化の懸念の声

地元自治体、所内各課の協力のもと写真やパースを用いた住民説明など最大限の対応を実施



橋梁架設による見通し悪化の不安は解消されず、事業実施の合意に至らず

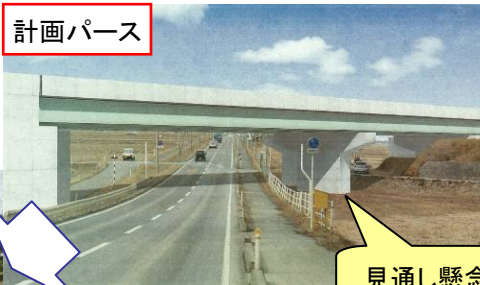
橋梁架設イメージ図



分かりやすい計画説明、問題解決を現場で実証

橋梁が出来ることにより懸念されていた交差点の見通しについて、**パースだけではなく、現地に単管足場で仮想の橋脚を設置し、見通しが確保できることを実証**

計画パース



見通し懸念

仮想構造物の構築



単管足場にて、橋脚の仮想構造物を現地に構築
見通しの現地確認

パースの姿を
現地で確認

地域全体との合意を形成